

2021年(令和3年)8月4日(水曜日)

室蘭・海星 8強入り逃す

【長野】全国高校総合体育大会(インターハイ)テニス競技は3日、長野県松本市の浅間温泉庭球公園で団体戦の男女3回戦と準々決勝が行われた。前日、初陣を飾った北海道男子代表の室蘭・海星学院は3回戦で名経大市(愛知)と対戦。ダブルスの松田空(2年)・池田蓮(同組)が敗れると第1シングルの小笠原陸(3年)が逆転負け。0-2で敗退し、準々決勝に進めなかった。個人の部シングルスは5日に始まり、団体戦初戦突破の立役者、小笠原が出場する。

(野田篤志)

全国高校総体テニス男子

初出場ながら初戦を飾り、愛知の強豪・名経大市(監督は「勝つチャンスはあつり、臨んだ8強を懸けた戦い」)に屈した。菊地竜平(監督)は「残念」と肩を落とした。



【海星学院―名経大市(愛知)】第2シングルス、サーブを放つ桜田(左)と池田(右)。

道予選を胆振勢で初めて制したほか、51年間続いていた札幌優勢の勢力図に風穴を開け挑んだ大会。ゲームカウント3-0から逆転を許した主将の小笠原は「仲間にも申し訳ない」と肩を落とした。

小笠原と共にチームをけん引したもう一人の3年・桜田陽。隣のコートの小笠原の試合に「自分がポイントを奪って声を上げ、少しでも落ち着かせたい」と第2シングルスに臨んだ。

2度目のインターハイとなった桜田。立命館慶祥(江別市)に通っていた1年生の時に全国出場を果たしたが「もっとテニスに打ち込みたい」と昨春、海星学院に転入した。

一番伸びたのは、菊地総監督が部活動で重視する人間性。逃げていたきつい練習にも真剣に取り組み、徐々に仲間の信頼を得た。寮生活では手料理を振る舞うほか、試合に敗れた後輩には電話をかけて励ました。転入当時の「自分のことばかり考えていた」(桜田)姿はもうない。

「途中から入った自分を受け入れてくれた」。団体で戦った高校最後の大会。サウスポークから強烈なサービスを奪うと、小笠原を鼓舞するように「カモン！」と何度もほえた。

ゲームカウント2-1。リードの途中で小笠原が敗れたため、無念のゲームセット。それでも仲間には感謝しかない。大学に進学しても技術ももっとレベルアップする。そう誓った。

- ▽男子団体3回戦
- 名古屋経大市(愛知) 2-1 単1-00 複1-00 海星学院
- 伊左治 8-1 池田
 - 三木 8-5 松田
 - 奥地 8-5 小笠原
 - 木野 打ち切
 - 桜田